

平成29年度全国学力・学習状況調査結果分析について

平成29年4月18日（火）に実施された全国学力・学習状況調査の結果について、校内で分析を行い、本校の優れた点や課題、今後の改善点について整理しましたので、その概要をお知らせいたします。

なお、この調査により測定できるのは学力の一部であり、学校教育活動の中では限られた部分でもあります。今後の教育活動の一助にしたいと考えております。

〈教科に関する調査からわかる西の原中学校生の特徴〉

（国語）

- * 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかをみる「国語A」、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる「国語B」ともに全国平均を上回りました。
- * 国語Aでは、全領域において、正答率が80%を超えており、多くの生徒ができています。特に、「読むこと」の正答率では全国・県平均（全国・県73.8）を大きく上回っています。
- * 国語Bでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の本校正答率が50%を超えており、全国・県平均（全国41.4・県39.9）を大きく上回っています。
- * 一方、「事実と考えとの関係に注意し構成を工夫して話す」ことについては全国正答率を下回っており、今後の課題となっています。領域では「話すこと・聞くこと」を苦手としています。授業の中で、考えを述べる機会を多くし、また、仲間からの評価の過程も大切にしていきたいです。

（数学）

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかをみる「数学A」、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる「数学B」ともに全国平均をやや上回りました。
- 数学では、「数学的な技能」に関わる問題の正答率が高く、計算や基本的な問題処理能力を身につけていることがうかがえます。一方、「数量や図形などについての知識・理解」は課題と言えます。数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて見直し、数学的に物事を考えるための土台を築く必要があります。
- 領域別には、「関数」をやや苦手としています。表、式、グラフを用いて二つの数量の関わりをとらえることで、変化や対応の様子を把握したり、将来を予測したりすることができる関数の便利さを理解することが課題です。

〈質問紙調査からわかる西の原中学校生の特徴〉

- ・ 1日あたり、2時間以上、メールやインターネットをする本校生徒の比率は28.5%で全国平均32.2%と比較して低い傾向にあります。
- ・ 学校外の勉強時間については、平日1日あたり2時間以上（学習塾等の時間も含む）、勉強している本校の生徒の比率は39.6%で、全国平均35.4%と比較して高い傾向ですが、一方、30分未満とほとんど勉強しない生徒を合わせると本校生徒の比率は15.2%で、全国平均13.2%より高い傾向にあります。今後の家庭学習への取組の支援体制づくりに努める必要を強く感じています。